

第2章

市民の健康状態

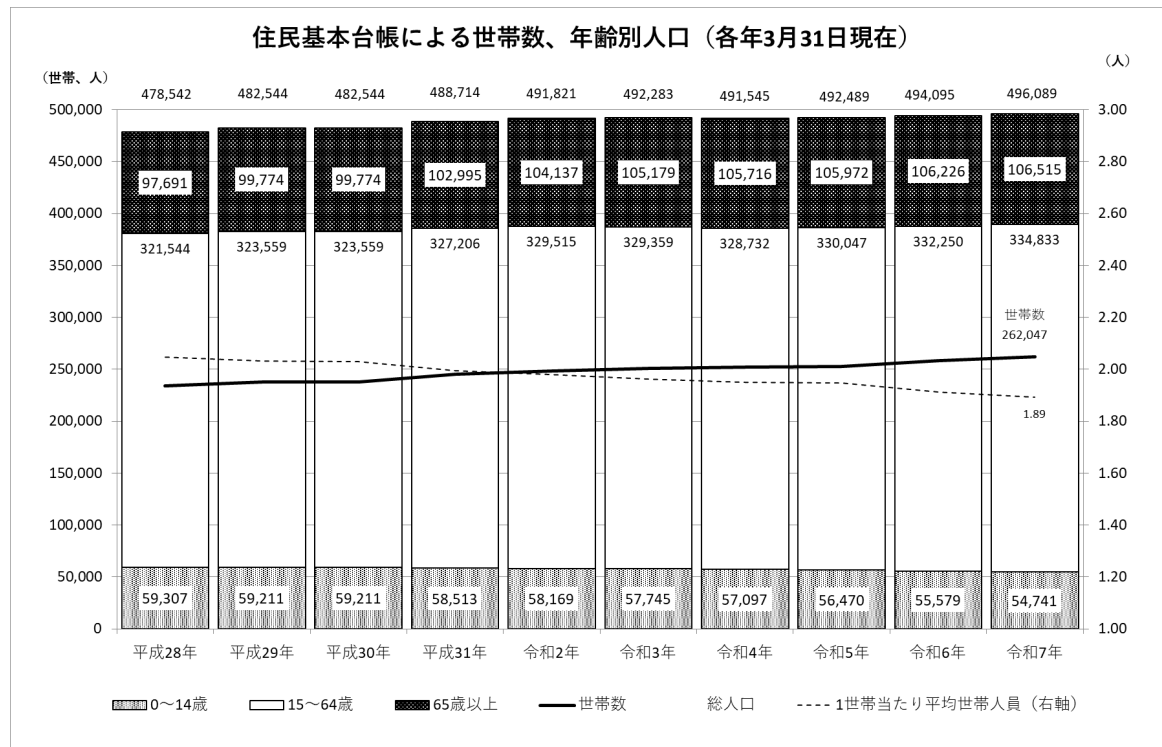
1 人口動態

(1) 人口・年齢構成

(ア) 年齢別人口・世帯数

市川市の人口は、496,089 人（令和7年3月31日時点）です。

人口は増加していますが、1世帯当たりの平均世帯の人員は減少しており、今後も核家族化の進展や単独世帯の増加が想定されます。



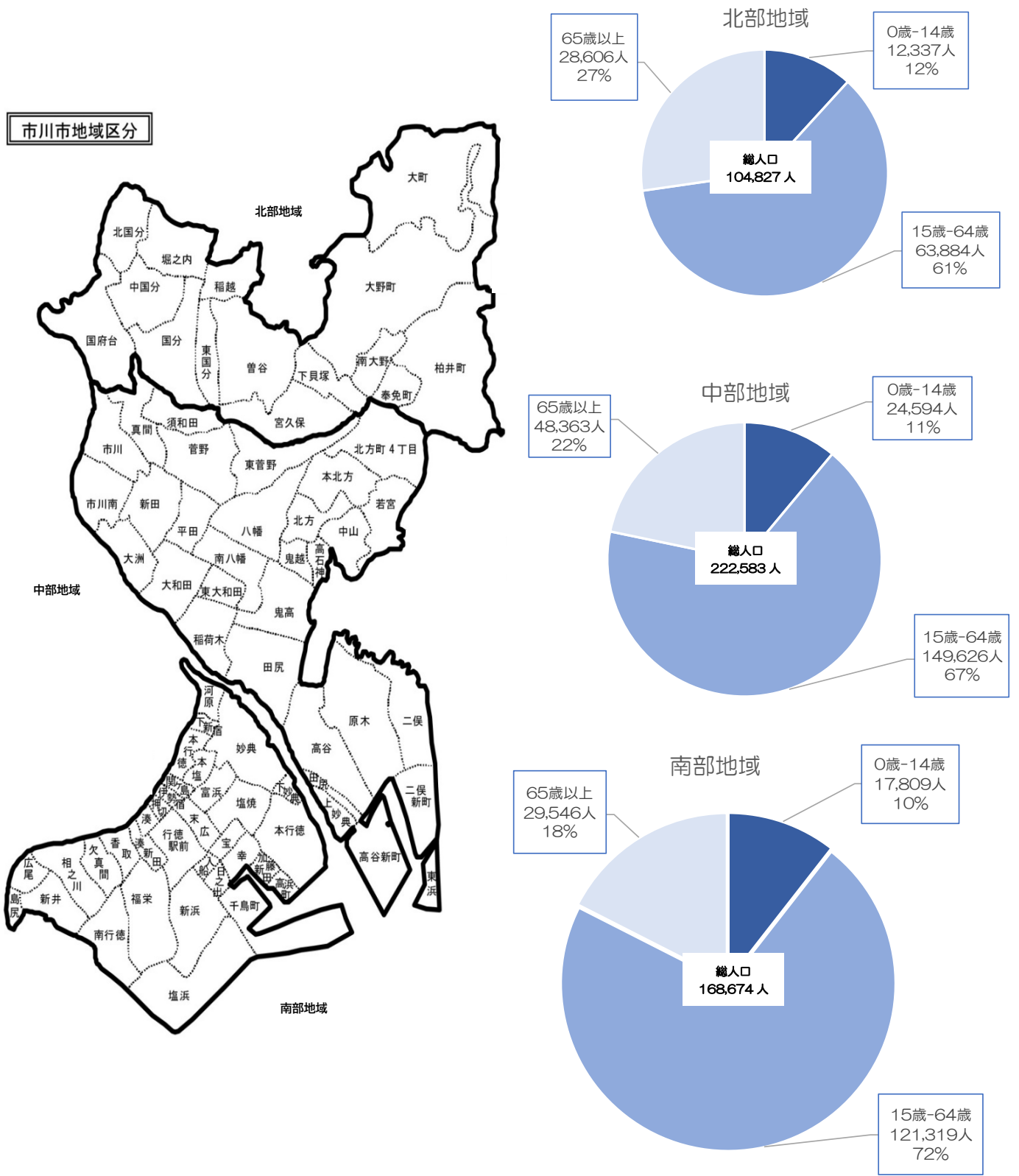
資料：住民基本台帳より

(イ) 地域別年齢構成

市川市は市域が広く、北部と中部、南部とでは年齢構成が異なります。

	町 丁 名
北部地域 約 21 km ²	大町、大野町、奉免町、柏井町、南大野、宮久保、下貝塚、曾谷、国分、東国分、稲越、堀之内、北国分、中国分、国府台
中部地域 約 22 km ²	北方町4丁目、東菅野、真間、市川、須和田、菅野、平田、八幡、北方、本北方、若宮、鬼越、中山、高石神、新田、市川南、大洲、大和田、南八幡、鬼高、稲荷木、東大和田、田尻、高谷、高谷新町、原木、二俣、二俣新町、東浜、上妙典、二子飛地、本郷飛地
南部地域 約 13 km ²	河原、下新宿、本行徳、本塩、関ヶ島、伊勢宿、妙典、富浜、末広、塩焼、宝、幸、入船、日之出、千鳥町、加藤新田、高浜町、塩浜、押切、行徳駅前、湊、湊新田、香取、欠真間、相之川、新井、広尾、島尻、福栄、新浜、南行徳、下妙典

市川市の地域別年齢構成（令和7年3月31日時点）



資料：住民基本台帳より

令和7年3月31日時点

	0歳-14歳 (年少人口)	15歳-64歳 (生産年齢人口)	65歳以上 (高齢者人口)	総人口	世帯数/1世帯当たり 平均世帯人員
北部地域	12,337 (12%)	63,884 (61%)	28,606 (27%)	104,827	49,349 世帯 2.12 人
中部地域	24,594 (11%)	149,626 (67%)	48,363 (22%)	222,583	117,985 世帯 1.88 人
南部地域	17,809 (10%)	121,319 (72%)	29,546 (18%)	168,674	94,713 世帯 1.78 人
市全体	54,740 (11.0%)	334,829 (67.5%)	106,515 (21.5%)	496,089	262,047 世帯 1.89 人

※四捨五入のため100%にならない場合があります。

【参考】10年前の地域別年齢構成(平成27年3月31日時点)

	0歳-14歳 (年少人口)	15歳-64歳 (生産年齢人口)	65歳以上 (高齢者人口)	総人口	世帯数/1世帯当たり 平均世帯人員
北部地域	13,944 (13.4%)	63,411 (60.8%)	26,951 (25.8%)	104,306	44,526 世帯 2.34 人
中部地域	24,816 (11.8%)	141,038 (66.9%)	45,076 (21.4%)	210,930	104,022 世帯 2.03 人
南部地域	20,727 (13%)	115,273 (72.5%)	23,104 (14.5%)	159,104	81,194 世帯 1.96 人
市全体	59,487 (12.5%)	319,722 (67.4%)	95,131 (20.1%)	474,340	229,732 世帯 2.06 人

全体の傾向（10年前との比較）

全地域において0歳から14歳の年少人口が減少し、65歳以上の高齢者人口が増加しました。1世帯当たりの平均世帯人員も10年前より0.17人減少し、1世帯当たり2人を下回りました。

北部地域（令和7年3月31日時点の状況）

高齢者人口の割合が27%と最も多く、これは10年前より変化はありません。
また、総人口においても10年前と変わらず最も少ない地域となっています。

中部地域（令和7年3月31日時点の状況）

10年前より総人口、世帯数が最も多い地域です。
また、1世帯当たり平均世帯人員の減少幅が一番小さな地域となっています。

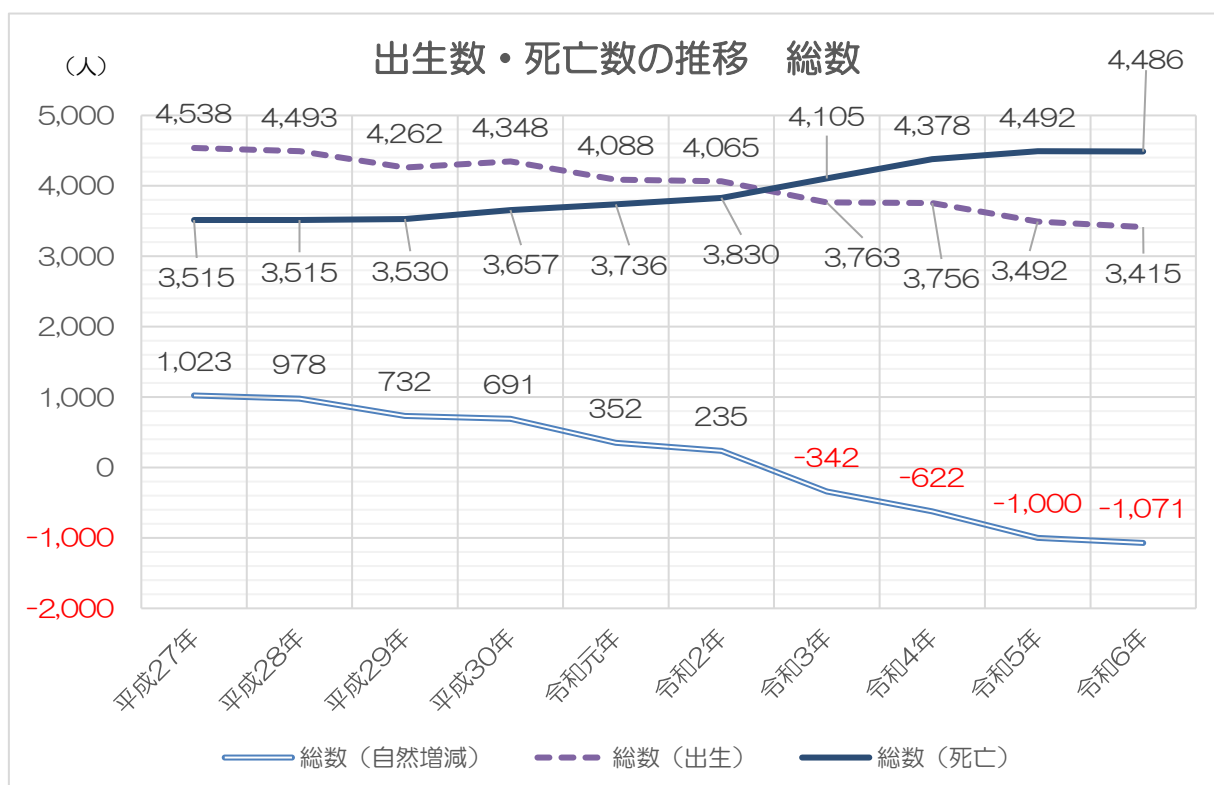
南部地域（令和7年3月31日時点の状況）

生産年齢人口の割合が72%と最も多い地域ですが、10年前より高齢化が進んでいる地域です。

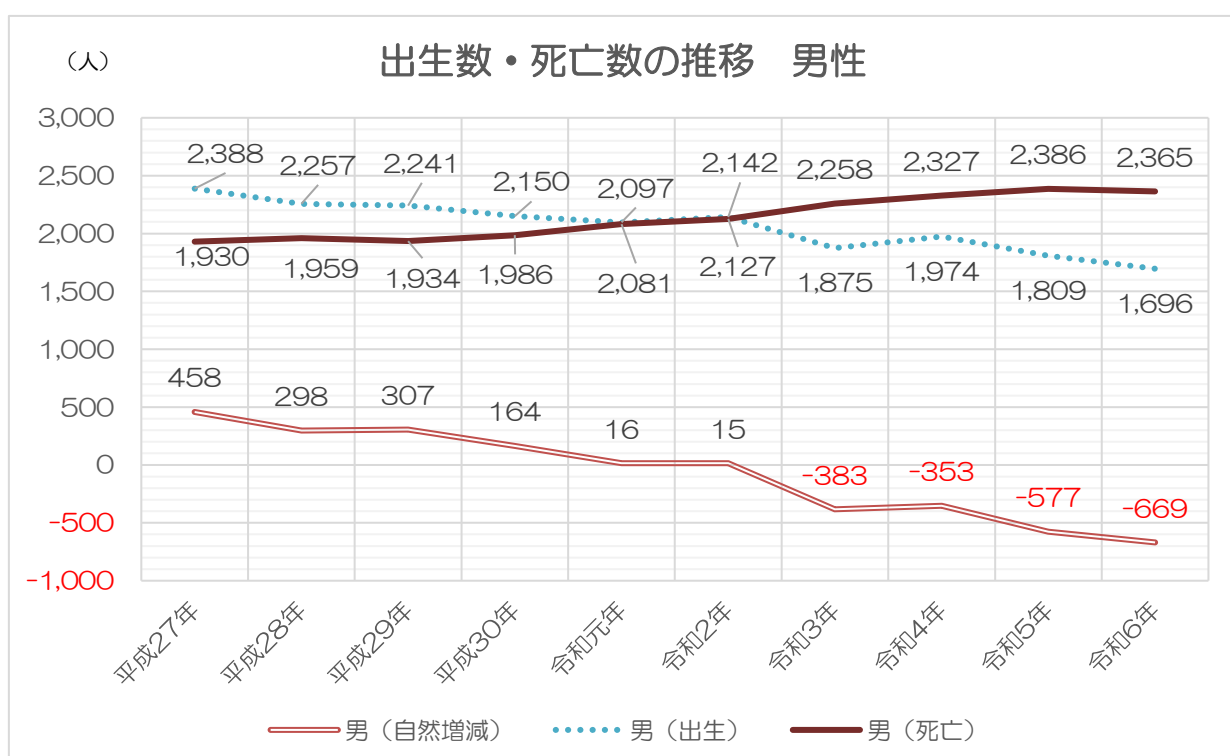
(2) 出生数・死亡数、合計特殊出生率の推移

(ア) 出生数・死亡数

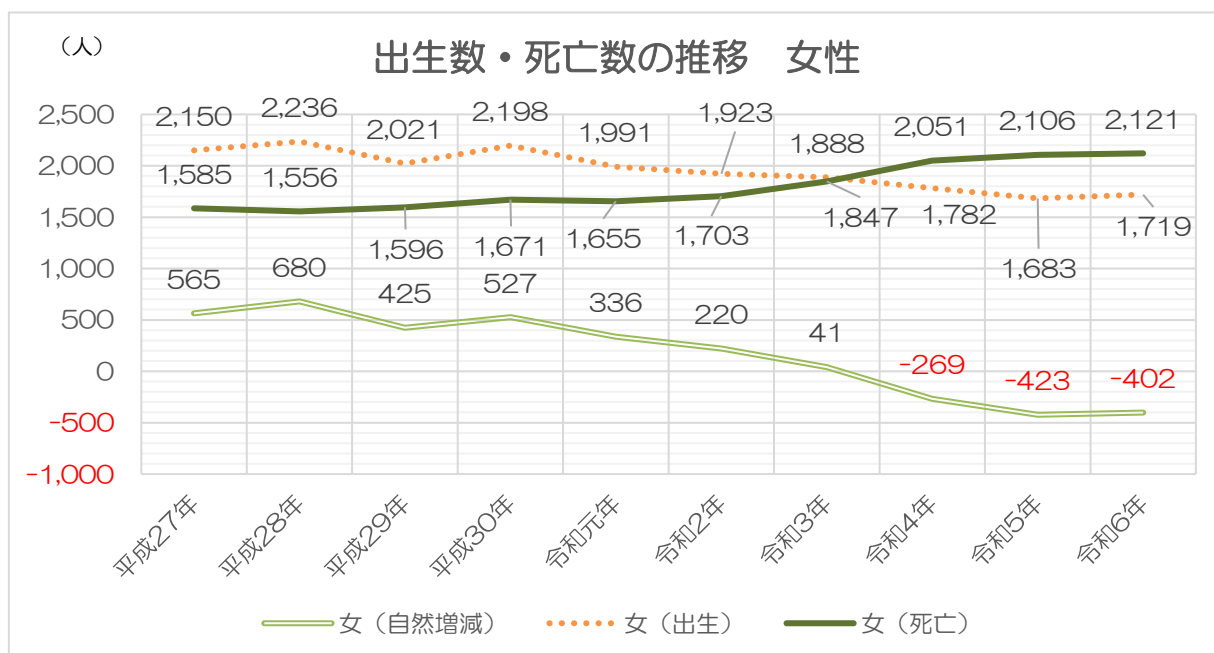
男性・女性ともに、死亡数の増加及び出生数の減少が見られ、自然増減が下降傾向を示しています。※自然増減とは、出生数から死亡数を減じたものです。



資料：住民基本台帳より



資料：住民基本台帳より



資料：住民基本台帳より

（イ） 合計特殊出生率の推移

令和6年の市川市は全国及び千葉県よりも低い数値となっていますが、減少率は一番低くなっています。

※合計特殊出生率は、出産可能年齢（15 から 49 歳）の女性に限定し、各年齢の出生率を足し合わせ、一人の女性が生涯、何人の子供を産むのかを推計したものです。

	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
全国	1.45	1.44	1.43	1.42	1.36	1.33	1.30	1.26	1.20	1.15
千葉県	1.38	1.35	1.34	1.34	1.28	1.27	1.21	1.18	1.14	1.09
市川市	1.39	1.38	1.32	1.36	1.27	1.26	1.17	1.17	1.09	1.06

資料：（千葉県 HP）合計特殊出生率の推移市町村別より

（１）健康寿命とは

健康寿命 健康上の問題で日常生活が制限されることなく自立して生活できる期間	平均寿命と健康寿命の差 日常生活に制限のある「不健康な期間」
平均寿命	

また「平均寿命」とは、通常0歳の平均余命（その年齢の人が平均してあと何年生きられるかという年数）を指しますが、本章では上記定義での健康寿命と比較するため、65歳の平均余命に65年を足し合わせた年数としています。

單位：年

男性（65 歳）	市川市			千葉県		
	平均寿命	健康寿命	差	平均寿命	健康寿命	差
令和3年	84.59	82.94	1.65	84.7	83.17	1.53
令和4年	84.72	83.05	1.67	84.72	83.21	1.51

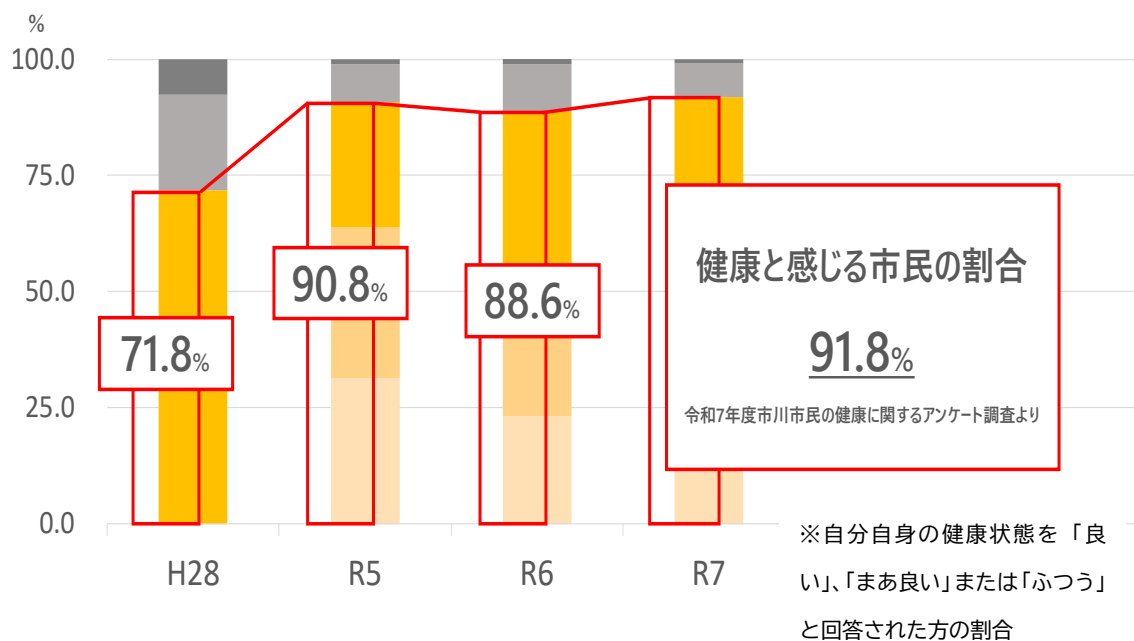
单位：年

女性（65 歳）	市川市			千葉県		
	平均寿命	健康寿命	差	平均寿命	健康寿命	差
令和 3 年	89.59	86.02	3.57	89.29	86.06	3.23
令和 4 年	89.75	86.19	3.56	89.48	86.23	3.25

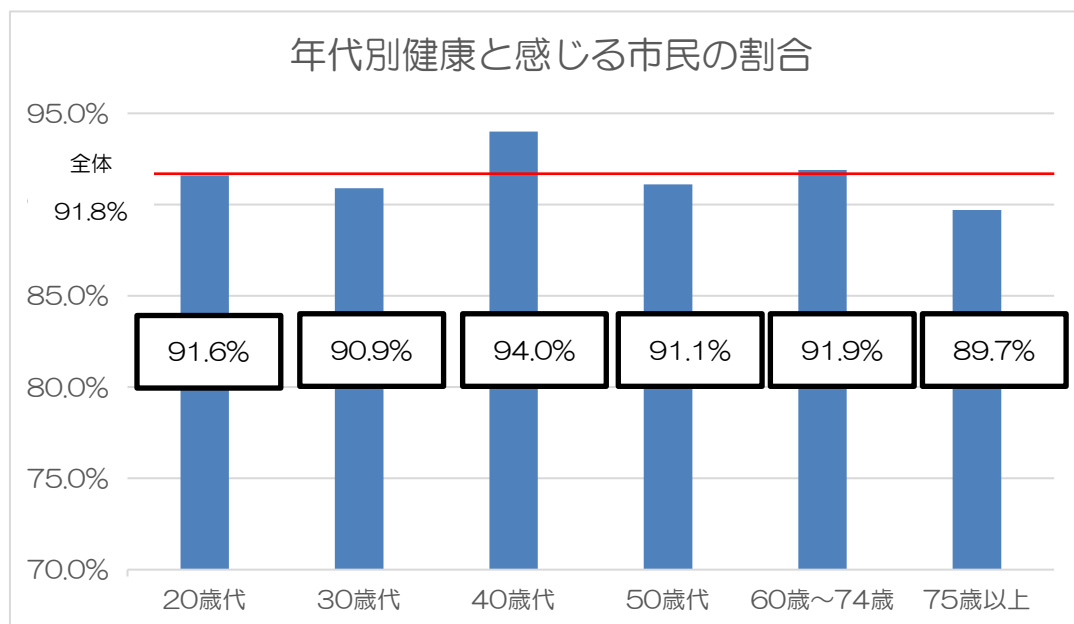
11

(2) 健康であると感じる市民の割合（主観的健康観）

主観的健康観として自分が健康であると感じる市民の割合を、定期的実施する市民の健康に関するアンケート調査により算出しています。



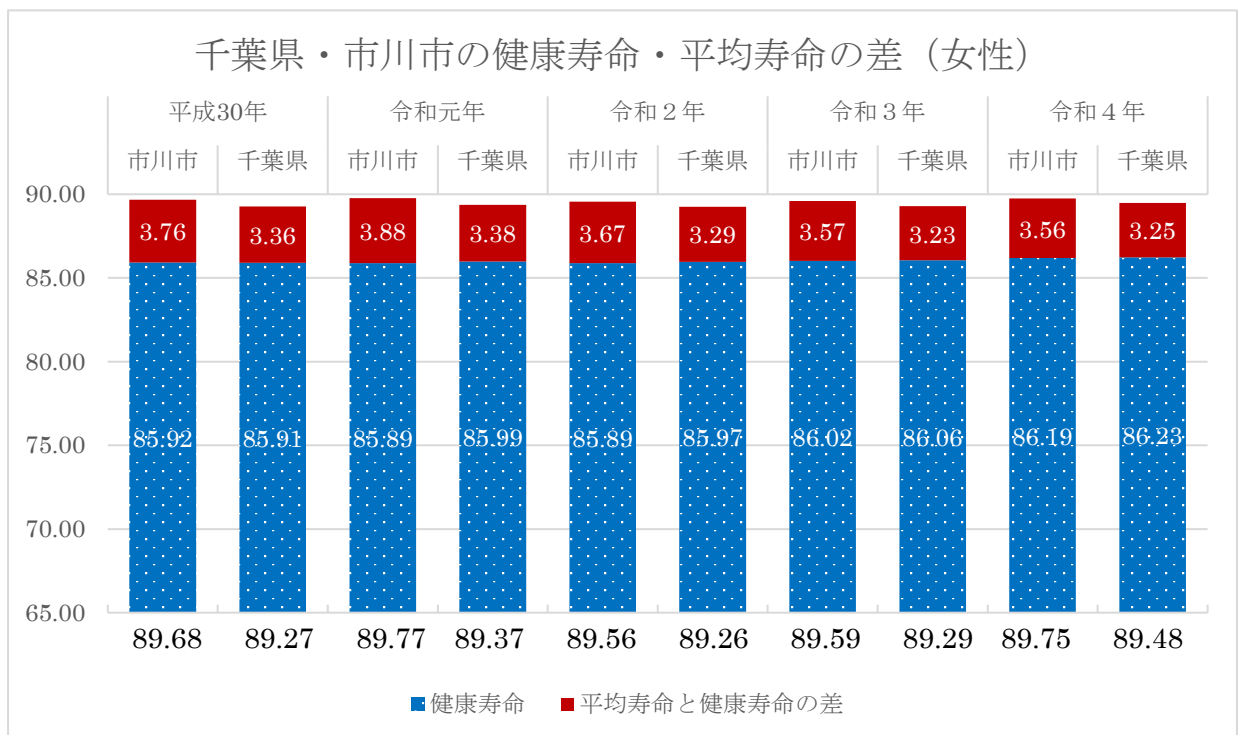
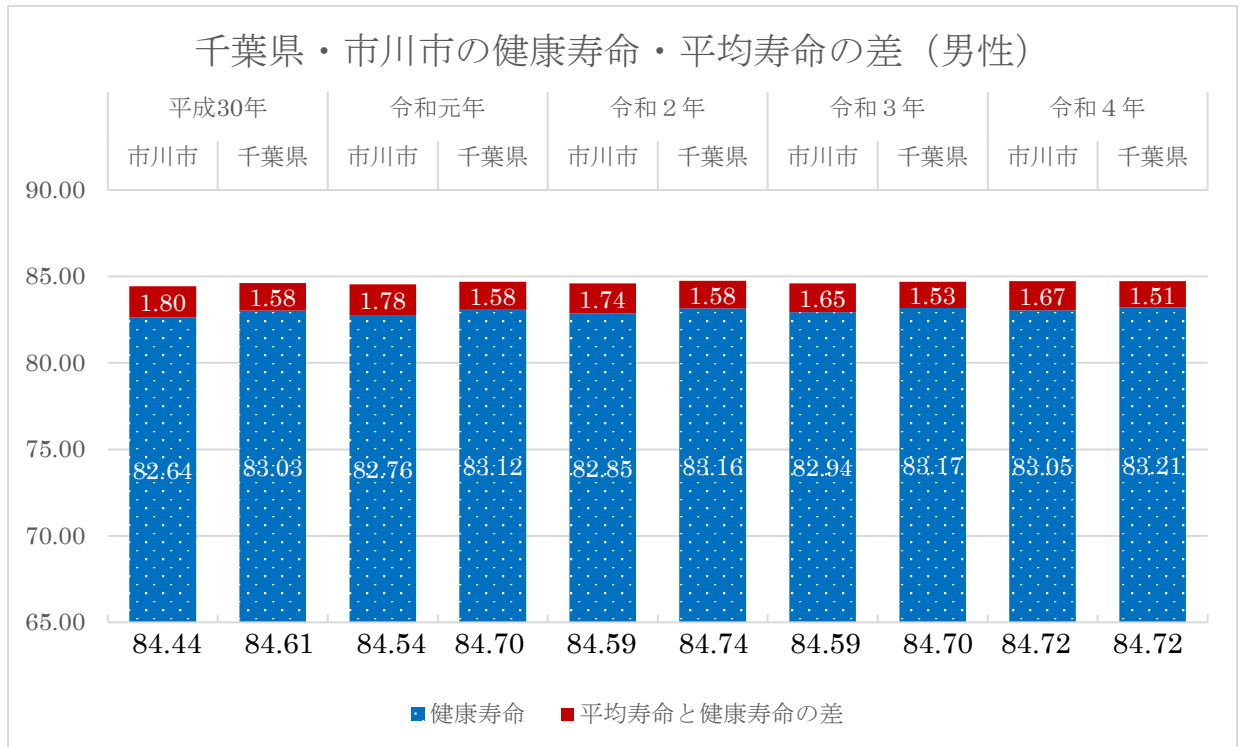
- ・ 91.8%の市民が、健康と感じており、昨年度より3%上昇しています。



資料：令和7年度市民アンケートより

- ・ 「良い」、「まあ良い」または「ふつう」と感じると回答した人の割合は、40歳代が一番高く、60歳～74歳、20歳代がそれに続いています。
- ・ どの年代もおおむね9割が「良い」、「まあ良い」または「ふつう」が占めています。

(3) 健康寿命、平均自立期間、要介護期間



資料：千葉県 Web サイト「健康情報ナビ」より

市川市の状況

- 男性よりも女性のほうが平均寿命、健康寿命とも長くなっています。
- 男性は、平均寿命、健康寿命とも延びています。
- 女性は、平均寿命は低くなるものの、健康寿命は延びています。
- 女性の健康寿命と平均寿命の差は若干減少していますが男性は増加しています。

千葉県との比較

- 市川市は男女ともに健康寿命と平均寿命の差が千葉県よりも大きくなっています。

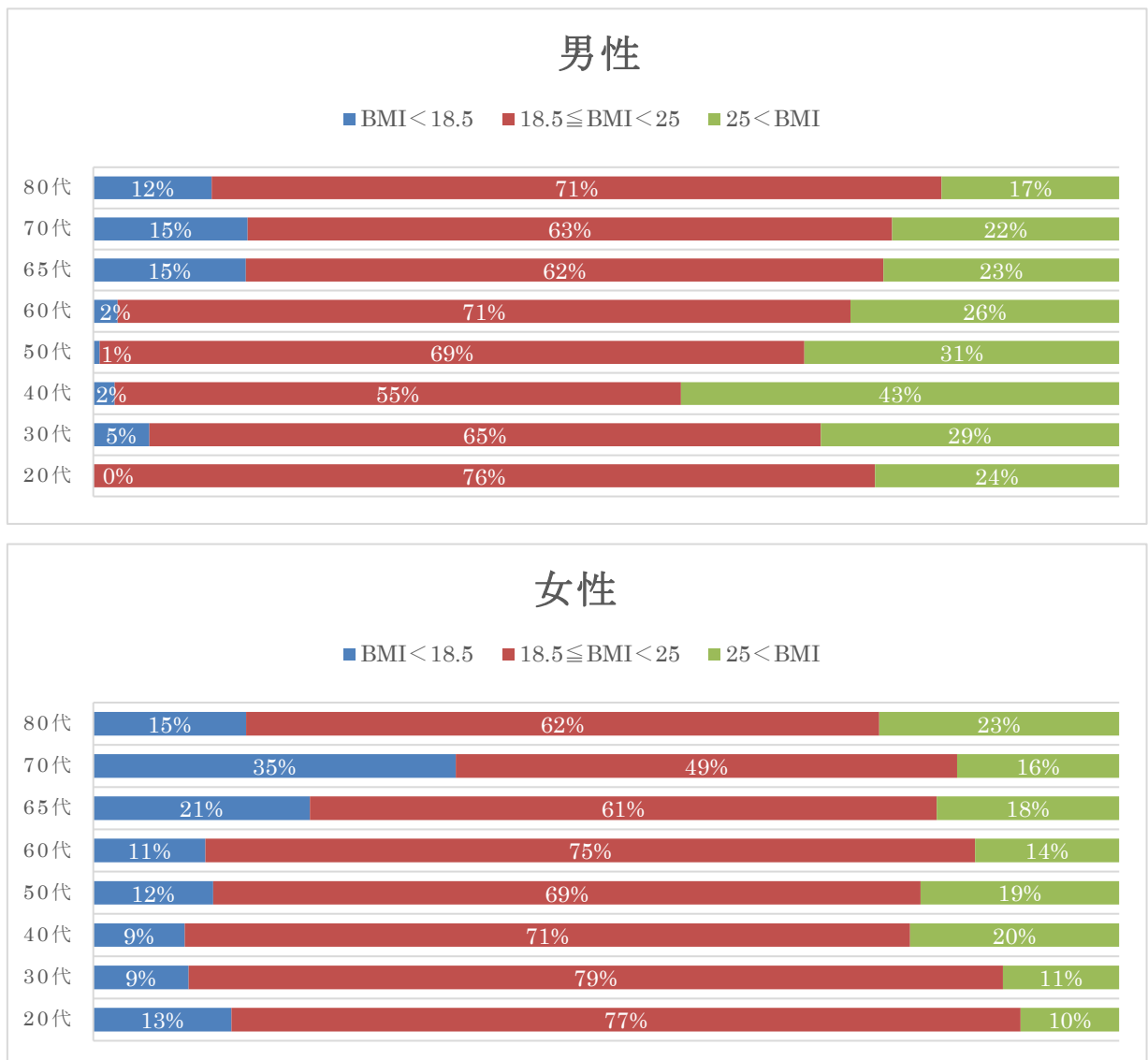
3 BMI（体格指数）

（１）BMI について

BMI は成人の肥満度の判定に用いる指標です。体重（kg）÷身長（m）÷身長（m）で算出します。

BMI（数値の範囲）	（肥満度）判定
BMI < 18.5	低体重（やせ）
18.5 ≤ BMI < 25.0	普通体重
25.0 < BMI	肥満

（２）市民の現状



資料：令和6年度市民アンケートより

○男性の状況

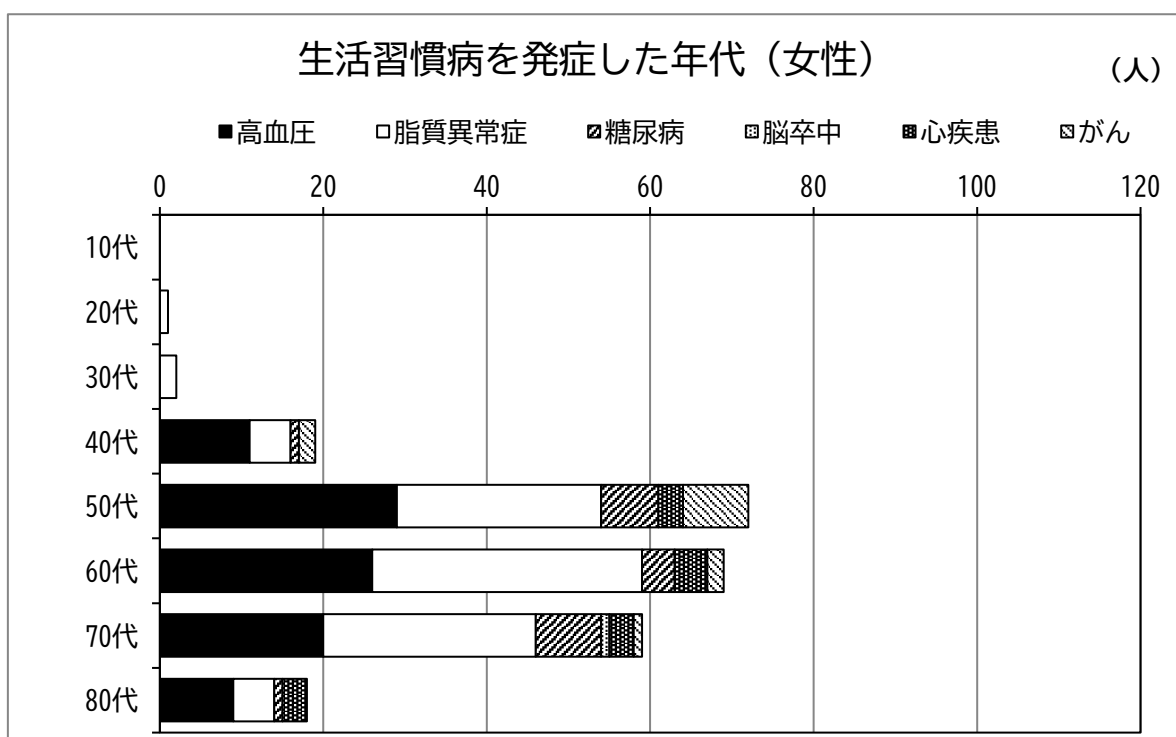
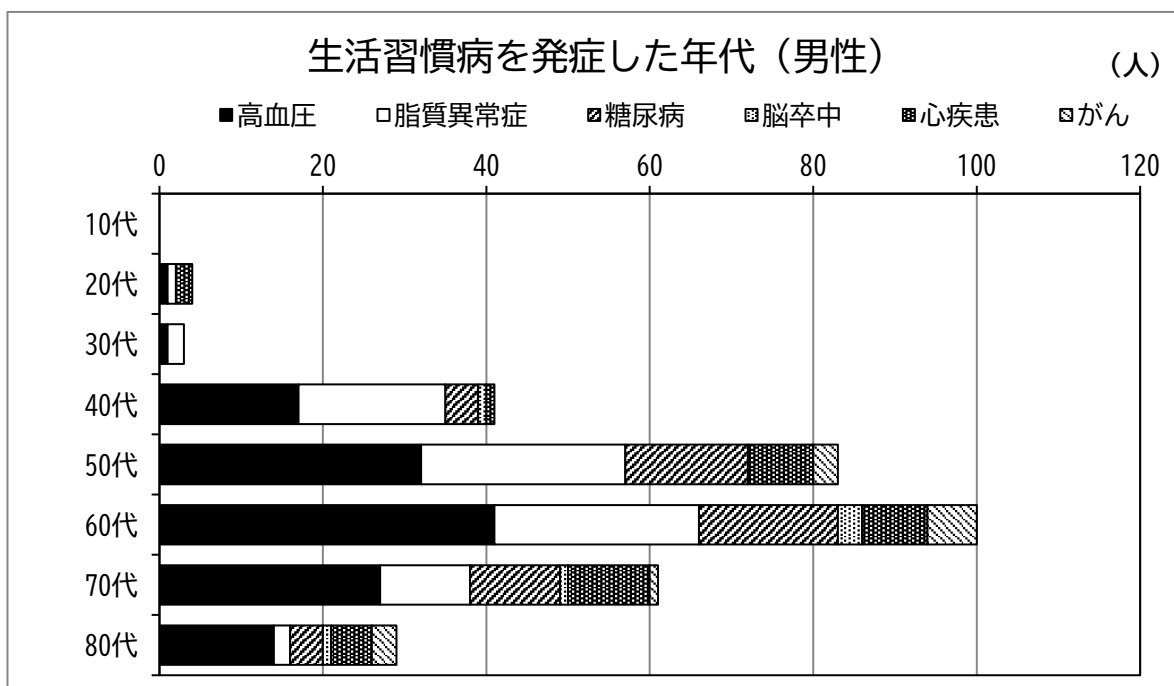
- ・ 20代で2割以上が肥満（BMI が 25 以上）であり、40代で4割を超えます。その後は減少しますが、70代まで2割以上が肥満の状態です。

○女性の状況

- ・ 60歳以降ではやせ傾向の割合が約2割で、70代は最大35%に達します。
- ・ 20代のやせ傾向は男性には見られませんが、女性は13%見られます。

4 生活習慣病

(1) 生活習慣病を発症した年代

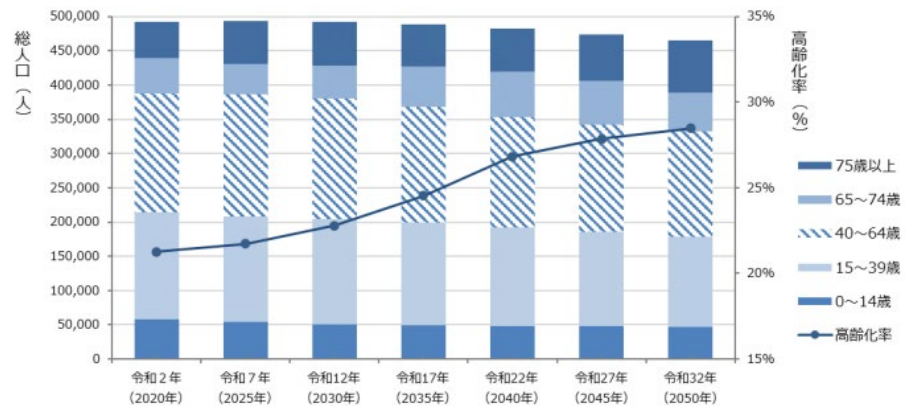


資料：令和6年度市民アンケートより

- 男性、女性ともに、40代以降から発病する人が多い傾向にあります。
- 男性、女性とも高血圧、脂質異常症が多い傾向にあります。
- 高血圧の発症者について、男性は60代、女性は50代が最も多くなっています。

5 高齢化率と要介護等認定率

(1) 人口及び高齢化率の将来推計



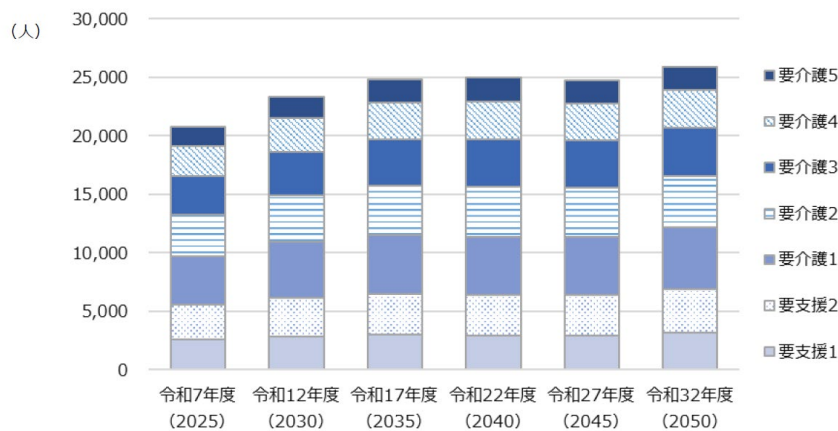
資料：第9期 市川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画より

○高齢者人口は令和32年（2050年）頃まで増加し、これに伴い、高齢化率は28.5%まで上昇すると見込まれます。

(2) 要介護等認定者の状況及び将来推計

(ア) 要介護度別認定者数の将来推計

○要介護度別認定者数の合計においても、認定率と同様の推移を示しています。



資料：第9期 市川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画より

(イ) 要介護等認定者の状況 高齢化率、要介護認定率の推計

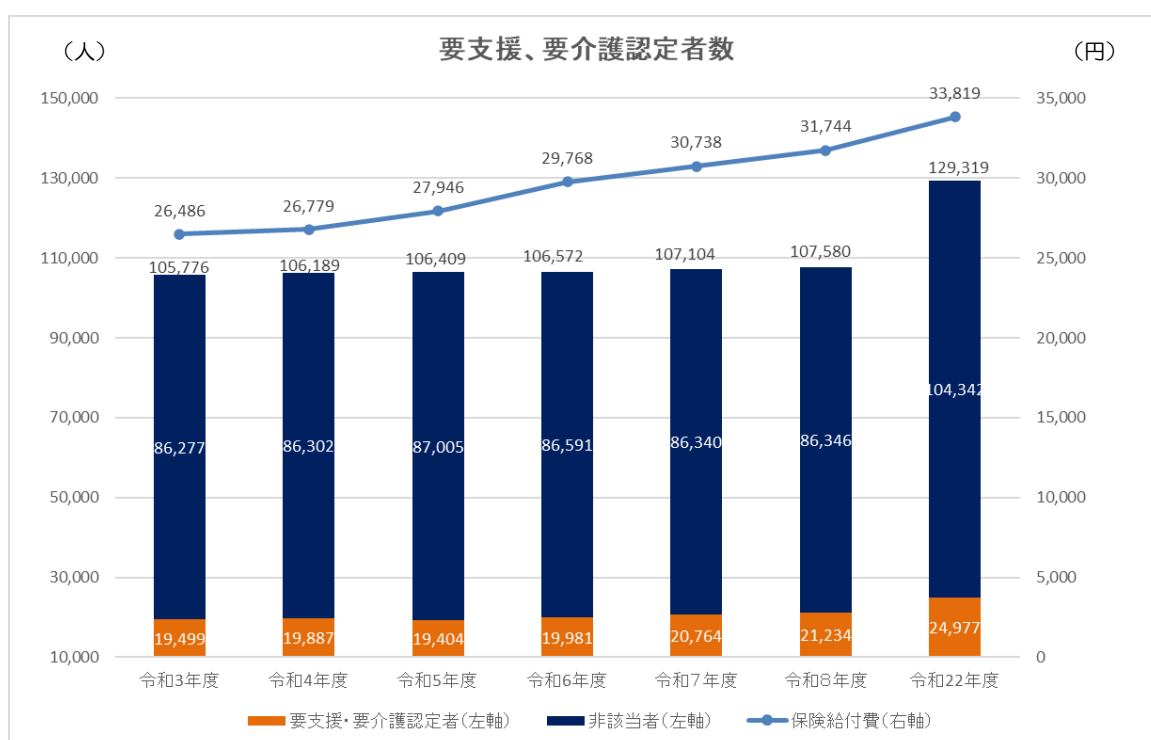
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
人口	491,411人	492,275人	492,835人	492,672人	493,015人	493,197人
第1号保険者	105,776人	106,189人	106,409人	106,572人	107,104人	107,580人
要支援・要介護認定者	19,499人	19,887人	19,404人	19,981人	20,764人	21,234人
うち、第2号被保険者	537人	533人	524人	524人	548人	548人
高齢化率	21.5%	21.6%	21.6%	21.6%	21.7%	21.8%
要介護認定率	17.9%	18.2%	17.7%	18.3%	18.9%	19.2%

※第2号被保険者：40歳以上64歳以下

資料：第9期 市川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画を加工

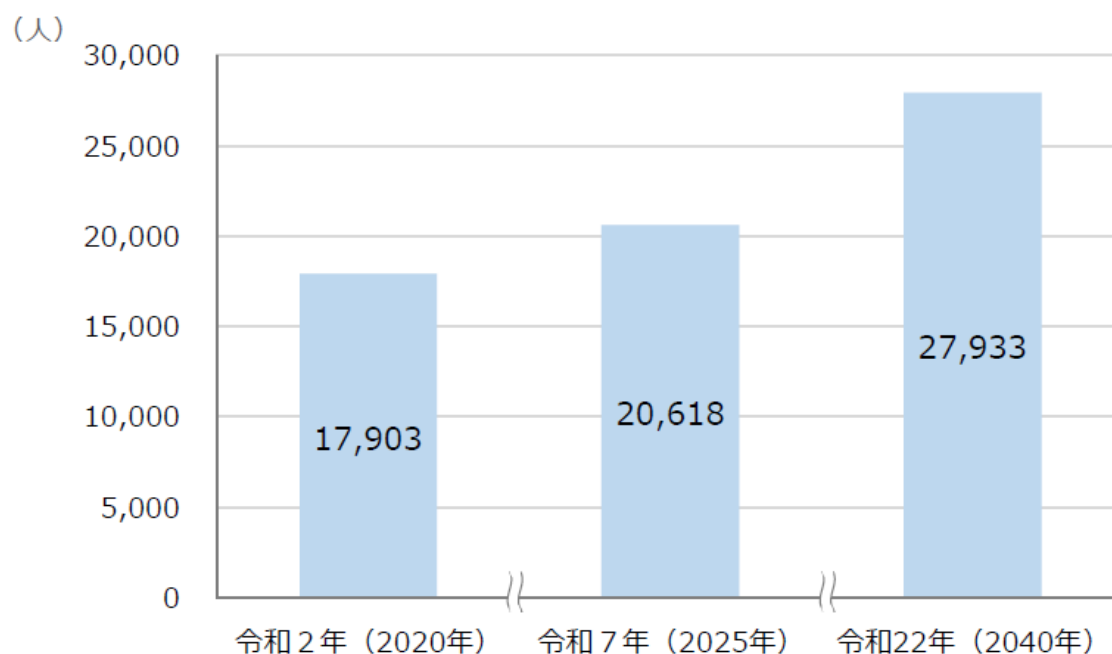
(3) 保険給付の推計

(ア) 要支援・要介護認定者数（65歳以上）及び保険給付費の推計



資料：第9期 市川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画を加工

(イ) 認知症有病率に基づく本市の認知症高齢者の推計

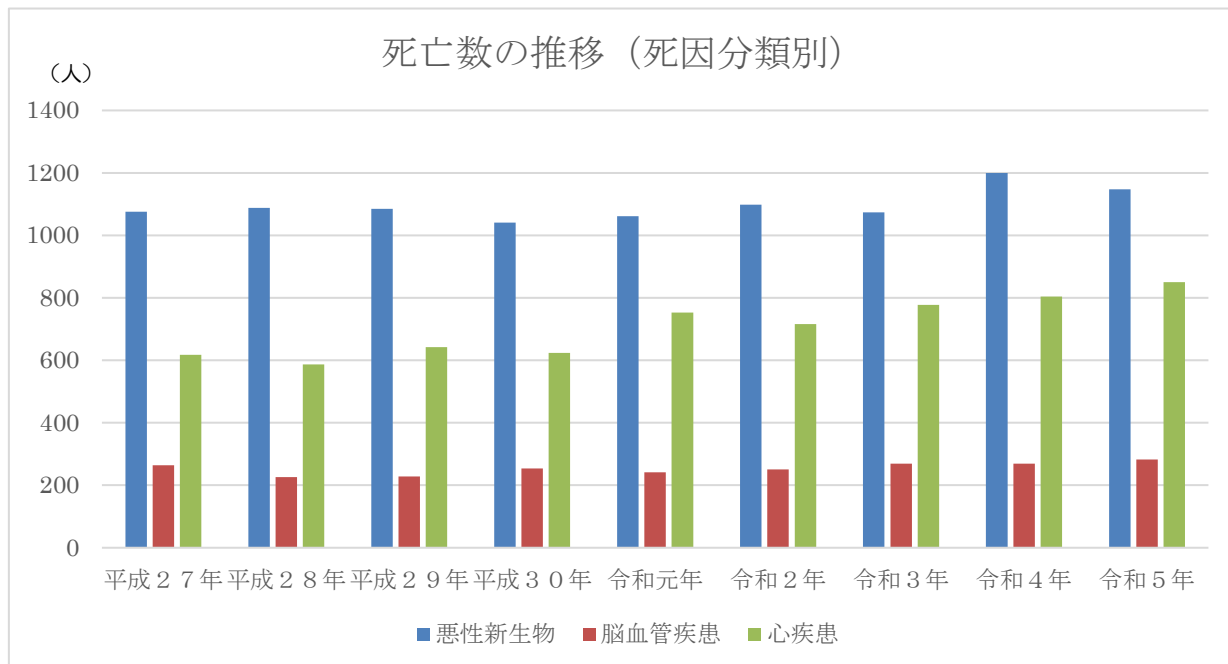


資料：第9期 市川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画より

6 死因

(1) 死因・死亡数

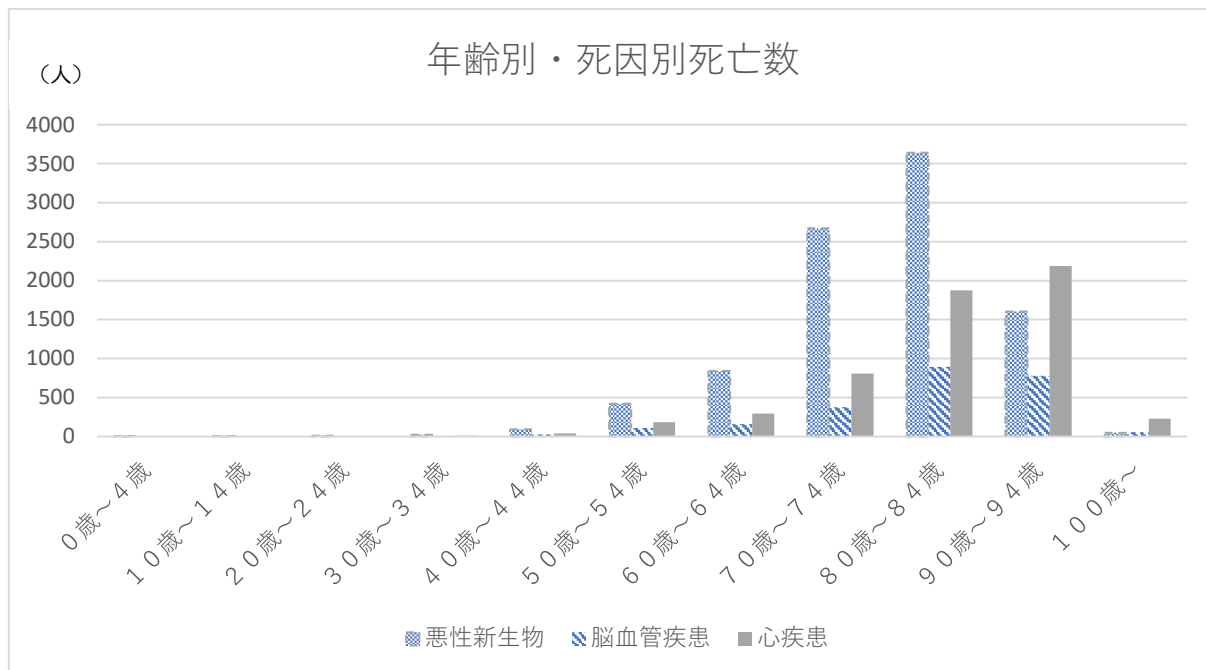
(ア) 死亡者数の推移



○悪性新生物（がん）による死亡数は脳血管疾患及び心疾患を上回っています。

○心疾患による死亡数は増加傾向にあります。

(イ) 年齢別・死因別死亡数

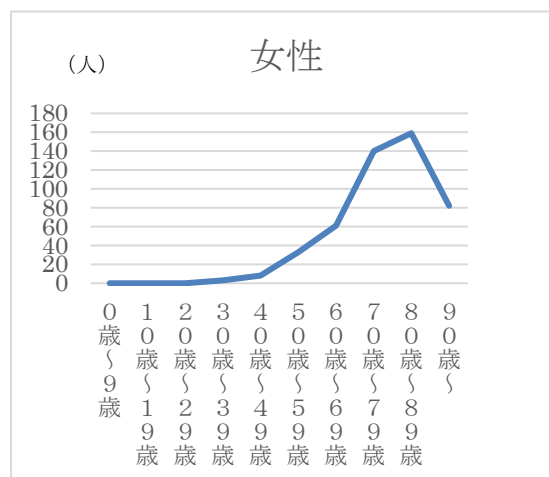
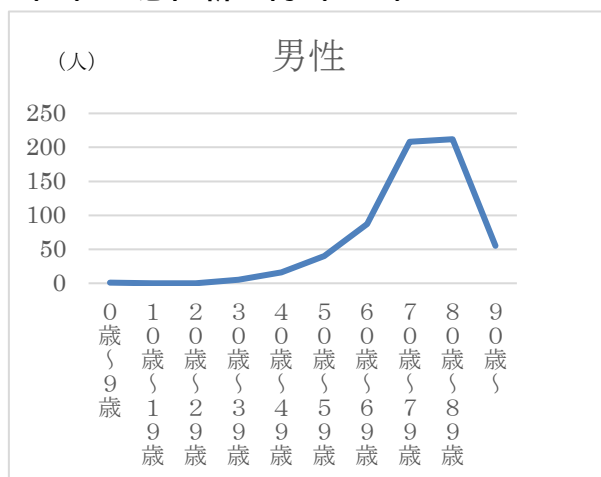


○50代を超えると急激に悪性新生物（がん）による死亡数が増加する。

○90歳～94歳を見ると心疾患による死亡数が悪性新生物（がん）を上回ります。

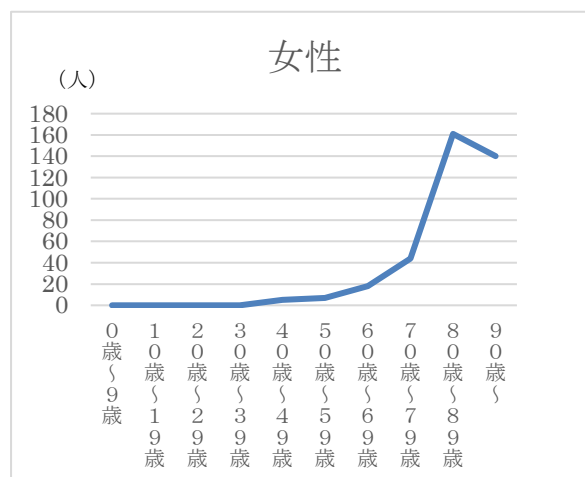
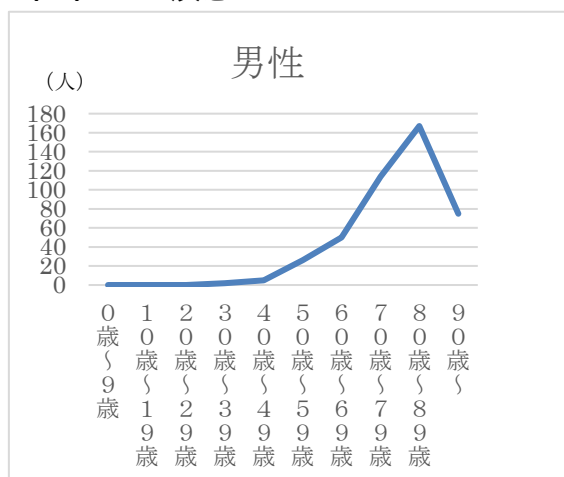
(2) 死因別死亡数

(ア) 悪性新生物(がん)



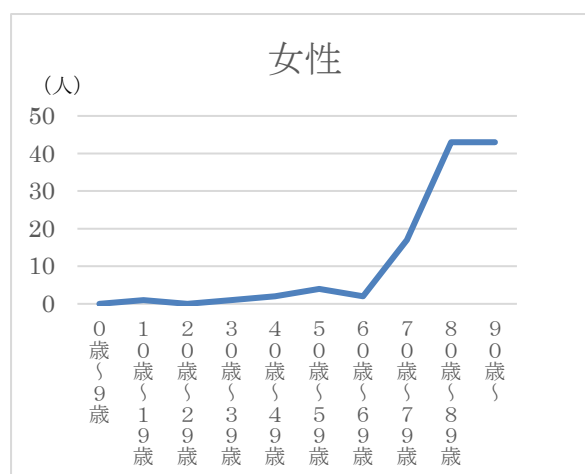
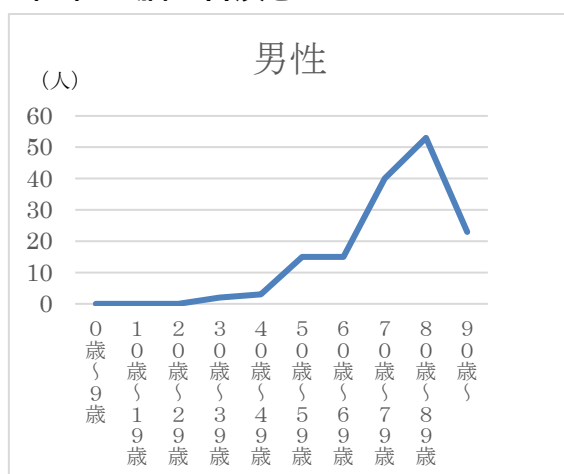
○男性は30歳過ぎ、女性は40歳過ぎから上昇をはじめ、男女とも80歳～89歳が最大値となります。

(イ) 心疾患



○男性は40歳過ぎ、女性は50歳過ぎから上昇をはじめ、80歳～89歳が最大値となります。

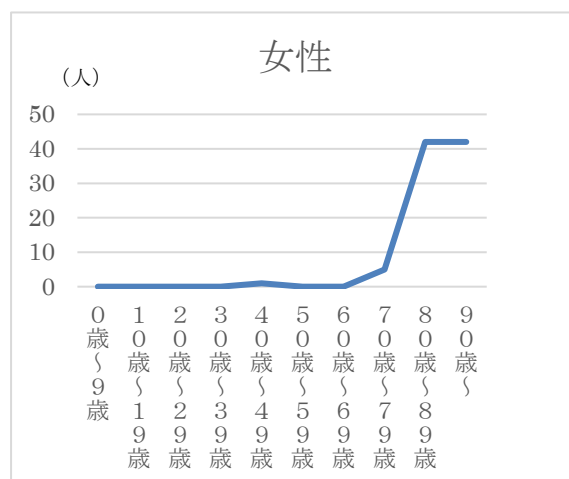
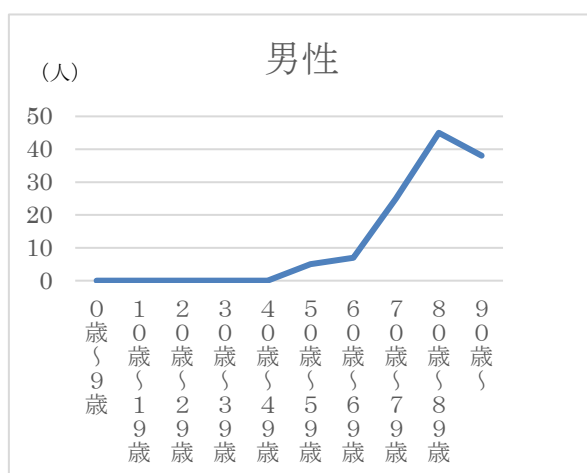
(ウ) 脳血管疾患



○男性は30歳過ぎから上昇をはじめ、80歳～89歳で最大値となります。

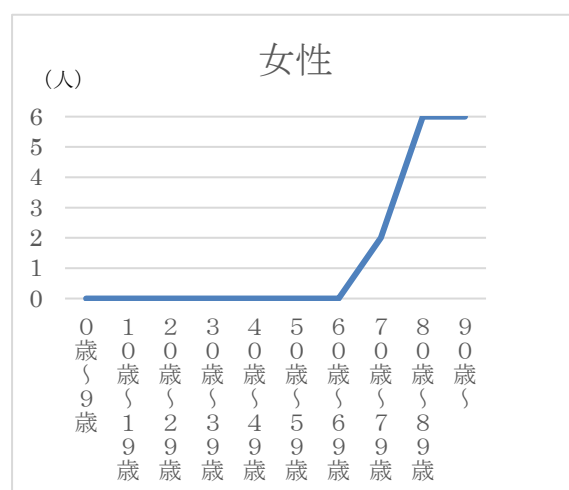
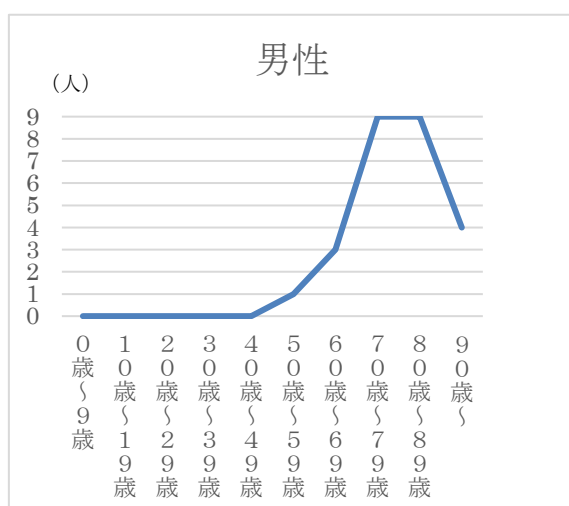
○女性は60歳過ぎから上昇をはじめ、80歳～89歳で最大値となります。

(工) 肺炎



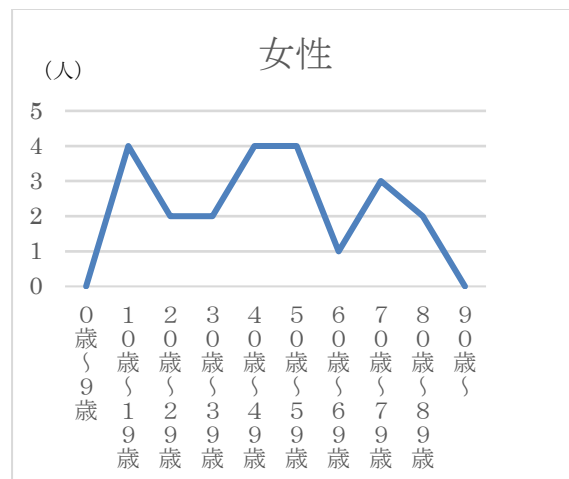
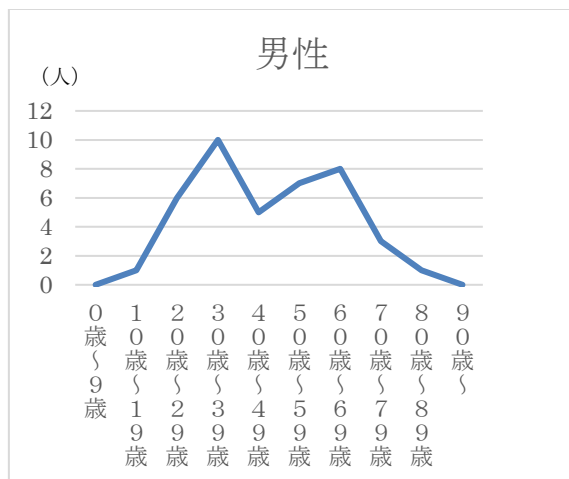
○男性は50代から、女性は70代から上昇をはじめ、最高値は80歳～89歳となります。

(オ) 糖尿病



○男性は40歳過ぎ、女性は60歳過ぎから上昇しています。

(カ) 自殺



○10代から数値が上昇しており、男性は30代及び60代、女性は10代、40代、50代に上昇がみられる。

7 医療費の状況

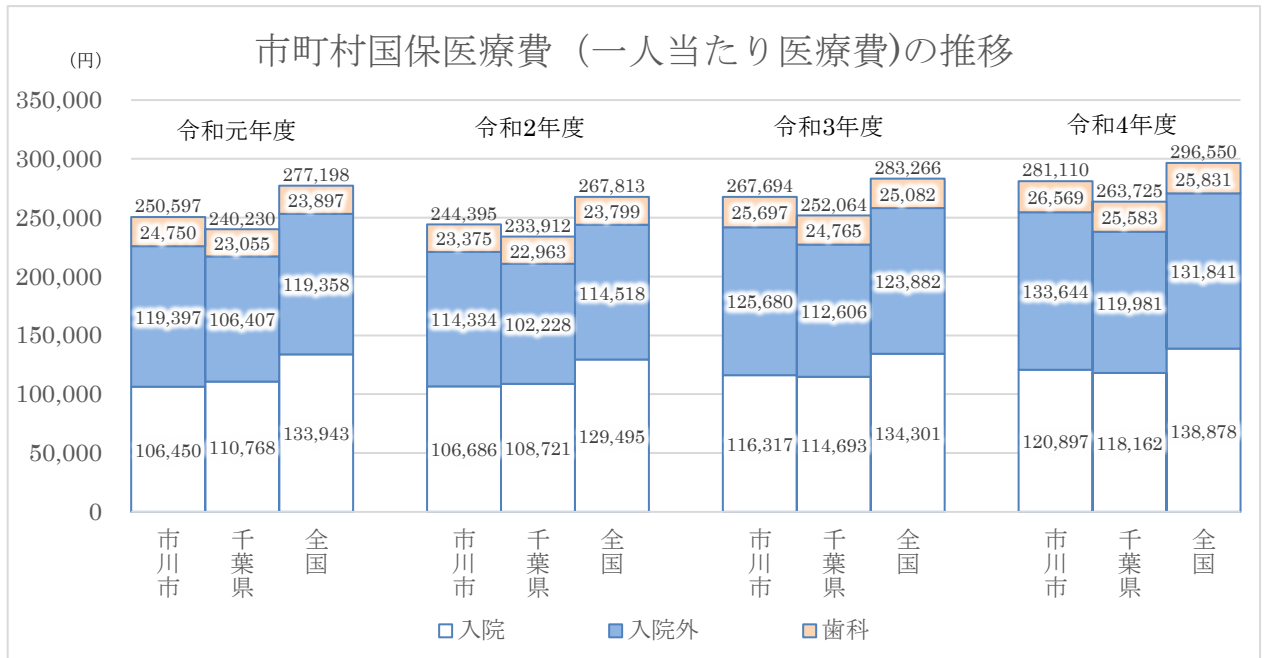
(1) 医療費総額及び一人当たりの医療費



資料：市川市国民健康保険 第3期データヘルス計画より

- 一人当たりの医療費は令和2年度から増加しています。
- 令和3年度からの伸び率をみると総医療費は0.5%増加、一人当たりの医療費3.1%増加となっています。

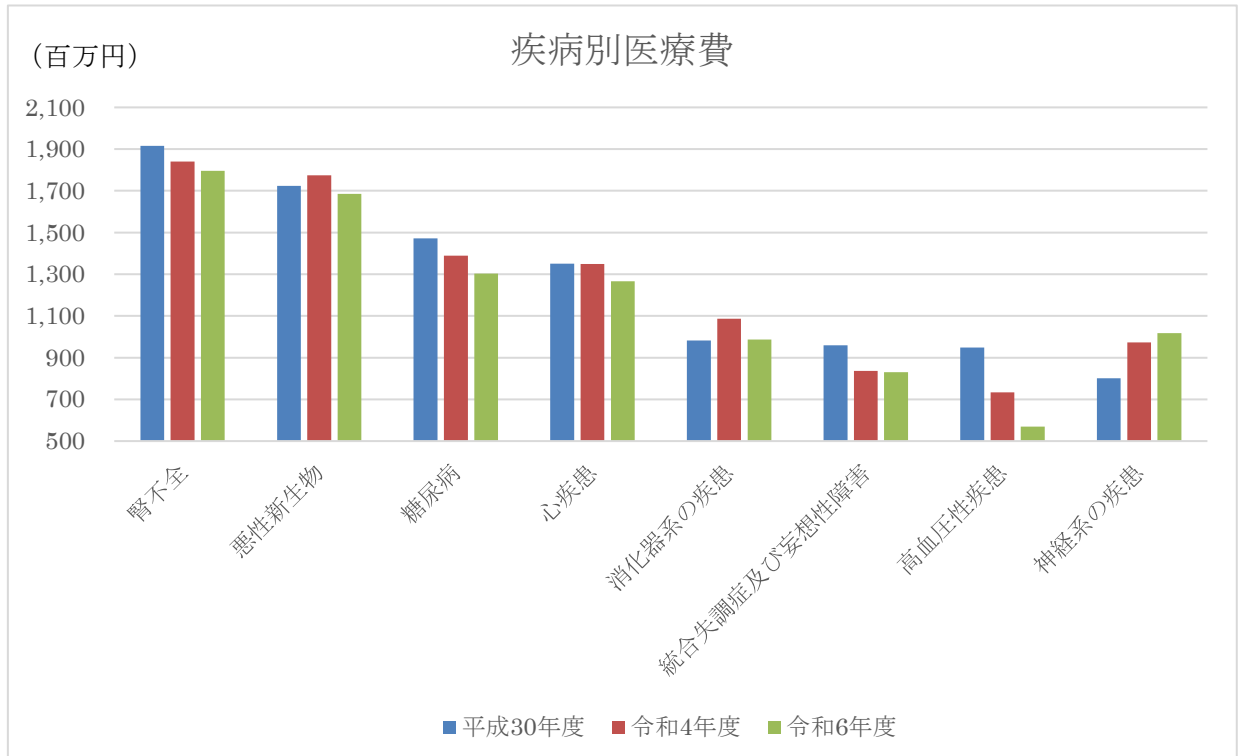
(2) 国保医療費の国・県との比率



資料：厚生労働省 Web ページ「医療保険データベース」より

- 市川市の国保医療費（一人当たり）の増減傾向は、国・県・市ともに同様の動向を示しています。
- 市川市の国保医療費（一人当たり）の額は、直近4年間において国よりも低く、県よりも高くなっています。
- 市川市の国保医療費（一人当たり）は令和2年度に減少に転じたものの、直近の3年間では増加傾向にあります。

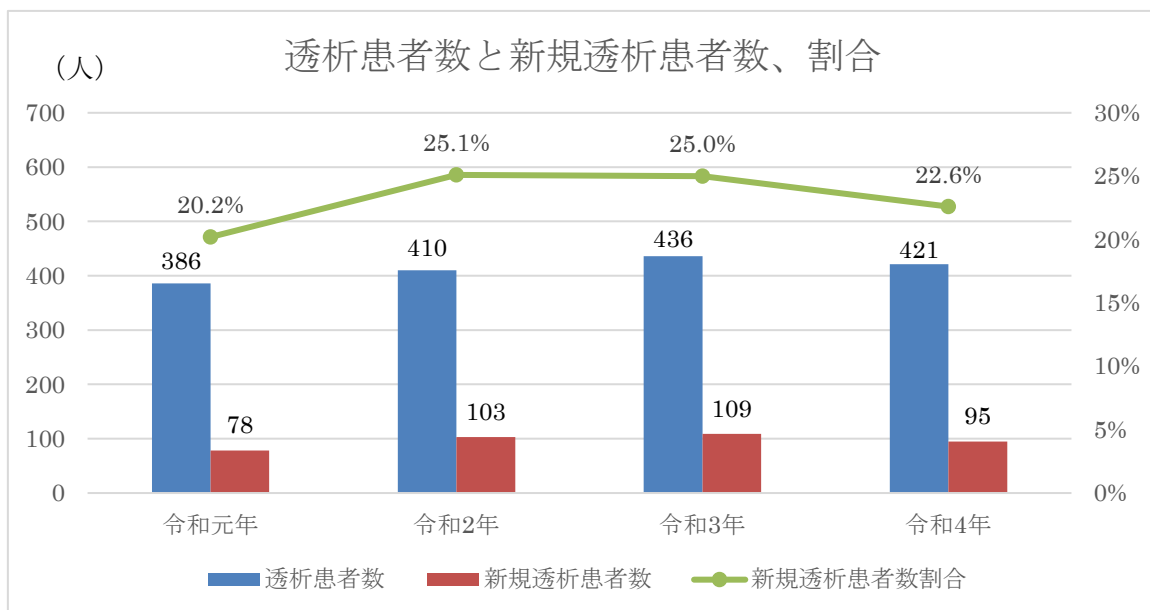
(3) 疾病別医療費



資料：国保データベースシステムより

- 平成30年度から令和6年度にかけて一番医療費が多くなっているのは腎不全となっています。
- 高い数値を示している順番は、腎不全、悪性新生物、糖尿病、心疾患となっており、平成30年度から変化はありません。

(4) 透析患者数、新規透析患者数（国民健康保険）

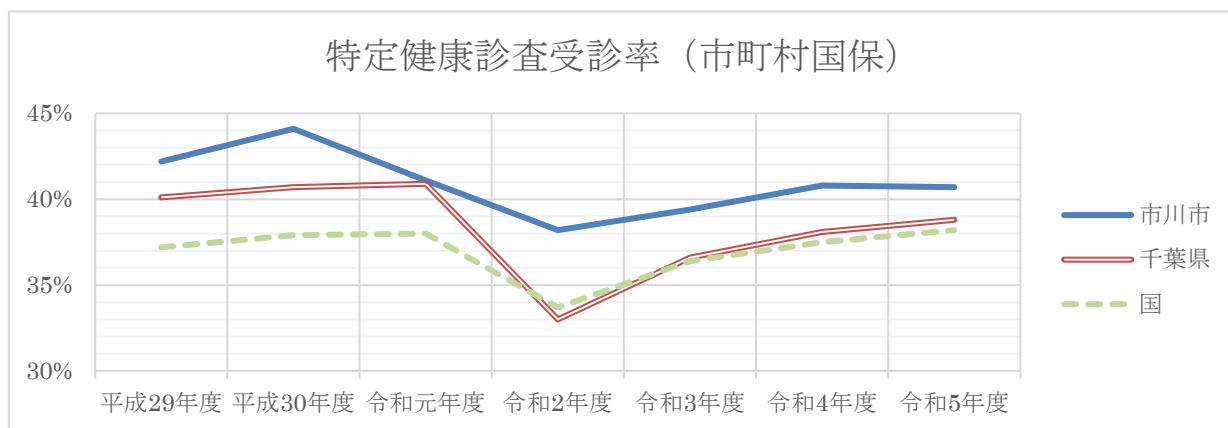


資料：市川市国民健康保険 第3期データヘルス計画より

- 透析患者数は、令和3年以降減少傾向にあります。
- 新規透析患者数は、令和元年より令和3年まで増加傾向にあり、その後減少傾向となりました。

(5) 特定健康診査および特定保健指導（国民健康保険）

(ア) 特定健康診査受診率



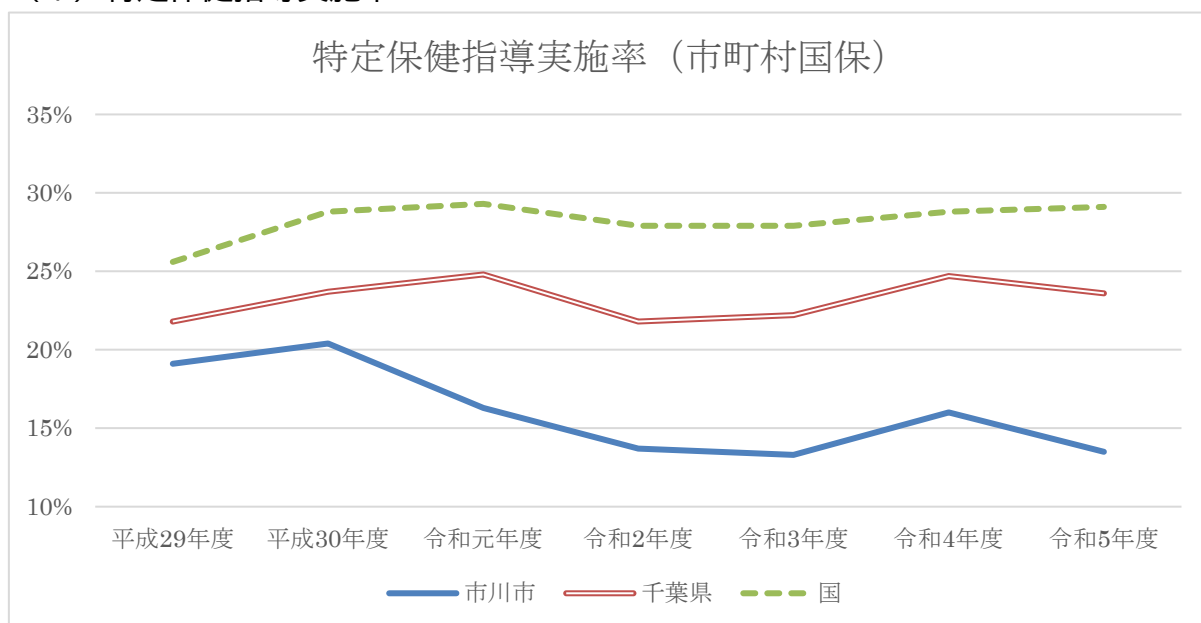
特定健康診査受診率（市町村国保）

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
市川市	42.2%	44.1%	41.1%	38.2%	39.4%	40.8%	40.7%
千葉県	40.1%	40.7%	40.9%	33.0%	36.6%	38.1%	38.8%
国	37.2%	37.9%	38.0%	33.7%	36.4%	37.5%	38.2%

資料：（市川市、千葉県）千葉県国民健康保険団体連合会「特定健診特定保健指導等実施結果状況表」より

資料：（国）厚生労働省「特定健診・特定保健指導の実施状況」より

(イ) 特定保健指導実施率



資料：（市川市、千葉県）千葉県国民健康保険団体連合会「特定健診特定保健指導等実施結果状況表」より

資料：（国）厚生労働省「特定健診・特定保健指導の実施状況」より

特定保健指導実施率（市町村国保）

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
市川市	19.1%	20.4%	16.3%	13.7%	13.3%	16.0%	13.5%
千葉県	21.8%	23.7%	24.8%	21.8%	22.2%	24.7%	23.6%
国	25.6%	28.8%	29.3%	27.9%	27.9%	28.8%	29.1%

資料：市町村国保 特定健康診査・特定保健指導実施状況報告書より

資料：市川市データヘルス計画より

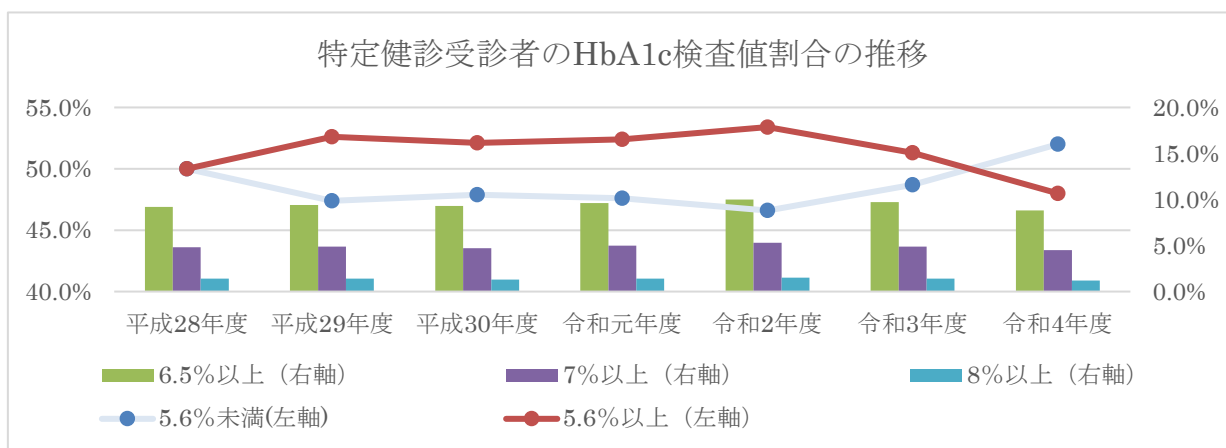
○直近 7 年間に於いて、市川市の特定健康診査受診率は、国・県よりも高い傾向にあります。

ただし、特定保健指導実施率は低い傾向にあります。

○市川市の特定健康診査受診率は令和 2 年度に下降したものの、その後は、上昇傾向を示しています。

○市川市の特定保健指導実施率の推移は、平成 30 年度から令和 3 年度まで減少傾向にありましたが、令和 4 年度に上昇し、令和 5 年度再び下降を辿っています。

（6）特定健診における HbA1c の有所見者割合（国民健康保険）



資料：市川市国民健康保険 第 3 期データヘルス計画より

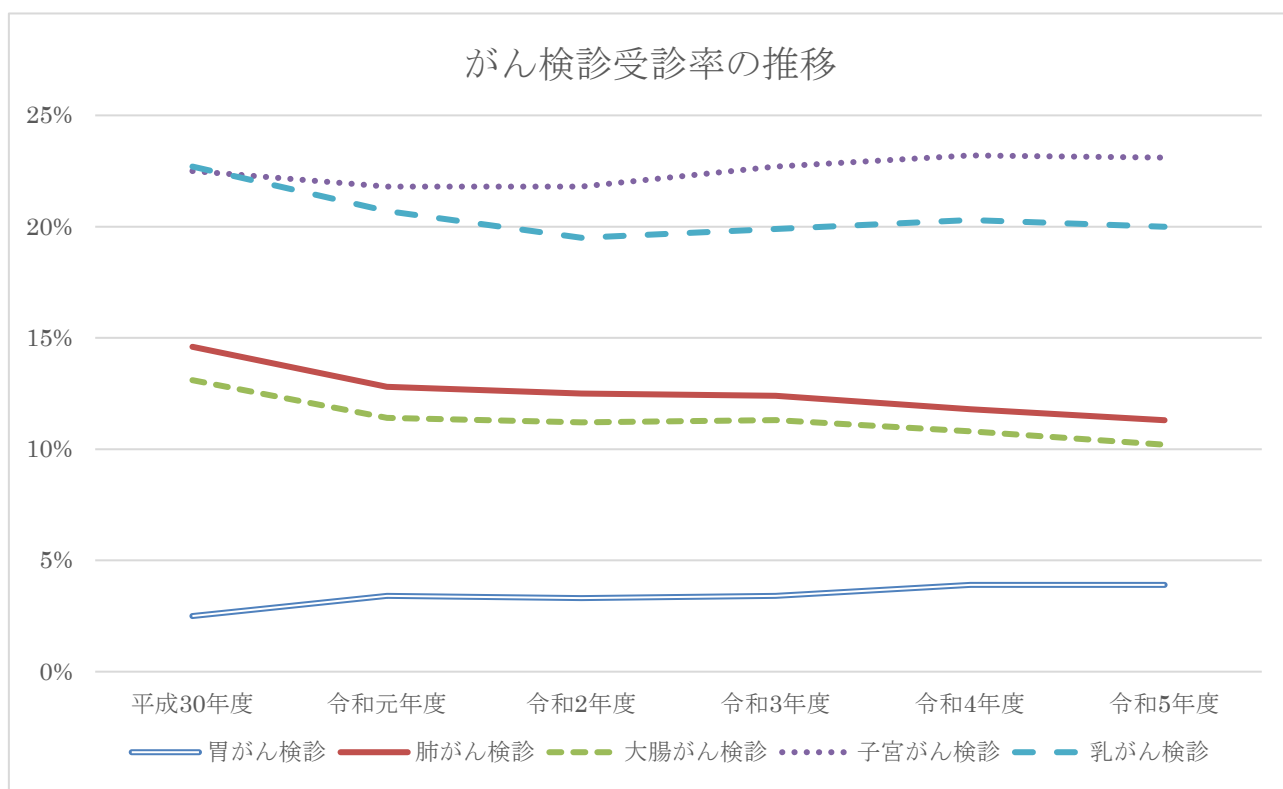
○受診勧奨判定値である HbA1c の値が 6.5% 以上の割合は令和 2 年度にかけて上昇していますが、令和 4 年度は 8.8% まで低下しています。

○特定保健指導の基準である 5.6% 以上の割合も同じ推移を辿り、平成 28 年度よりも低下しており、全体として改善傾向がみられます。

※人工透析への移行を予防、導入までの期間を延長させるために、腎機能低下が進行する前に糖尿病、高血圧、脂質異常症等の重症化を予防する取り組みが必要です。

特定保健指導基準値	HbA1c 5.6%以上
受診勧奨値	6.5%以上
糖尿病合併症予防のための目標値	7%未満
糖尿病の治療強化が困難な際の目標値	8%未満

(7) がん検診受診率



資料：厚生労働省「地域保健・健康増進事業報告」より

- 直近5年間に於いて、市川市のがん検診受診率は、子宮がん検診、乳がん検診、肺がん検診、大腸がん検診、胃がん検診の順に高い数値を示しています。
- 胃がん検診の受診率は2～3%の間を推移し、他と比べ低い傾向にあります。
- これらの受診率は、職場のがん検診等を受診した方の人数が含まれていないため、実際の受診率よりも低い数値を示しています。